第5回 越後つまり100km徒歩の旅

報告書



開催期間 2013年8月7日(水)~8月11日(日)

越後つまり100km徒歩の旅

こう りょう **領**

わたし すばら ちから 私 には素晴らしい力 があります。

はてしない可能性があります。

なにごと 何事にもくじけず、弱音を吐かず

できてきなりできている。できている。「出来る、出来る、必ず出来る」の精神で、

いっぽいっぽ ぜんしん 一歩一歩、前進すれば、必ずゴールに到達する ことし 事を知っています。

私は、多くの人たちや自然の恵みをはじめ有形 むけい さまざま ささ 無形、様々な支えがあって生かされていることへ かんしゃ 感謝します。

さらには、人生においての試練や苦労にもかんしゃ では、後と、優しい人間です。

越後つまり100km徒歩の旅

え得 精極的な姿勢 きに応 な かん ぜん 肾

御挨拶

第5回越後つまり100km徒歩の旅 団 長 澤 野 崇

5回目を迎えた今年、100 kmの事業を通して改めて気づかされることが多い年でした。

まずは、全国100km徒歩の旅の組織進化です。例年3月に行われていた団長研修に変わり、2月(東京)、5月(福岡)と年2回1泊2日で主催者研修が行われました。何のために行うのか、学生や参加者を指導する前に自分自身を律しているのか、全国各地の仲間と妥協のない、本気と本気のぶつかり合いを経験しました。組織は、トップ以上の組織にはなりません。100kmも団長以上の100kmにはなりません。しっかりと、自分自身に磨きを掛け実行委員会メンバーと共に成長して参ります。次に、参加者の減少です。昨年と同様のことを行っていては伸び無いと言うことを学びました。参加者が少ないと言うことは、我々の目指す目的を伝播する機会の喪失でもあり、参加者の気づきの機会減少でもあります。毎年、初めましての気持ちで、拡大に取り組んで参ります。

そして、一番重要視していた健康管理です。今年は猛暑続きでしたので、例年よりも水分補給等熱中症予防に努めておりましたが、途中大事を取りお休みし完歩出来ない参加者が出ました。当地域より暑かった開催地で全員完歩している所がありますのでこれは、事前対応できなかった我々にも責任の一端があります。100kmを歩ききると言う達成感と自信を持てるチャンスを逃した参加者から、ゴール後に次は頑張るという心強い言葉を聞くことが出来ました。一回の失敗にくじけず、弱音を吐かず、次に繋げるチャレンジ精神を垣間見られ嬉しかったです。100%安全と言うことはありませんが、100%に近づくようにより一層引き締めて準備して参ります。

学生スタッフの皆さん、春から本番まで毎週お疲れ様でした。研修当初にお話しいたしましたが、社会が求めている人材とは、どんな人材なのか。100kmにはそれを学ぶ機会がたくさんありました。様々な問題、課題を皆が力を合わせて解決していく問題解決能力、すなわち「生きる力」を実体験で学んできました。様々な経験を100kmだけにするのではなく、色々な事へ置き換えて行動し「自立・自律」していってください。

結びに、越後つまり 100 k m徒歩の旅は、行政・医療・報道各機関、学校関係者、地元企業・団体、社会人スタッフ、十日町 JC JC

団貨のみんなへ

熱い熱い100kmの夏が終わり、皆さん元気に過ごしていますか。

^{t かん} 時間を守って大切に使っていますか。挨拶を大きな声で言っていますか。

初参加の皆さんは、初めて100km完歩で何を感じましたか。とても長い道のりでも、あきらめず一歩一歩足を前に出して進んでいけば、いつか必ずゴールに到着する事を経験しましたね。複数回の参加の皆さんは、今までの経験を生かし遅れている子どもを応援してくれましたね。団長は、毎年その姿に感動しています。今年応援してもらった人は、来年は応援する側になりましょう。お互い様ですからね。

これから、つらい事があったときは、100km歩いた事を思いだして「出きる、出きる、必ず出きる」の気持ちで頑張って下さい。そして、
なることをだった。
苦しんでいる友達には「頑張ろう!」と伝えましょう。

みんなには「**素晴らしい力**」があるのです!

最後に、参加させてくれた家族に「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えたかな。まだなら、今からでも大きな声で伝えましょう。

第5回越後つまり100km徒歩の旅日程表

月日	8月7日(7	k) 1日目	8月8日(オ	大) 2日目	8/9(金) 3日目	8/10(±	.) 4日目	8月11日(日	3)5日目
時間	キナーレ ー 津南小学校		津南小学校 -	- 津南小学校	津南小学校 —	- 田沢小学校	田沢小学校 —	- 上野小学校	上野小学校	— ゴール
4:00					***************************************					<u>-</u>
4:30			スタッフ	起床	スタッフ	起床	スタッフ	起床	スタッフ	起床
5:00			小学生	起床	小学生	起床	小学生	起床	小学生	起床
5:30		スタッフ集合								
6:00			津南小学校	出発	津南小学校	出発	田沢小学校	出発	上野小学校	出発
6:30		受付開始								
7:00	越後交流館キナーレ		中津小学校	朝食・給水	越後田中駅	朝食	ミオン中里	朝食	小泉工業倉庫	朝食・給水
7:30		出発式								
8:00			石坂橋手前	水かけ	空き地	水掛	貝野小学校付近	水かけ		
8:30		出発					姿集落	休憩·給水	谷内製材	水かけ
9:00	諏訪神社	安全祈願祭	ひまわり広場	休憩•給水	マウンテンパーク津南	休憩·給水				
9:30							涌井工業	水かけ	笹山陸上競技場	休憩·給水
10:00	十日町消防署前	水かけ	調整池付近	水かけ			吉田公民館	休憩•給水		
10:30	新潟ソフトラクチャ	休憩·給水	龍ケ窪駐車場	休憩•給水	展望台	休憩·給水			太子堂付近	水かけ
11:00							吉田小学校	水かけ	神宮寺	昼食•給水
11:30	上島	水かけ	芦ケ崎小学校	昼食•給水	マウンテンパーク津南	昼食•給水	千手コミュセン	昼食•給水		
12::00	富剛建設	昼食·給水							村山興業機材センター	水かけ
12:30					空き地	水かけ			十日町市役所裏公園	休憩·給水
13:00			左側駐車場	水かけ	雪国	休憩·給水	霜条	水かけ		一言コール
13:30	中里広場	水かけ					ナカゴグリーンパーク	休憩·給水	十日町駅西口~緑道	水かけ
14:00	大村建設	休憩·給水	右側駐車場	休憩•給水	外丸空き地	水かけ			越後交流館キナーレ	ゴール
14:30			津南町役場	水かけ						
15:00	大地	休憩	津南小学校	ゴール	神社	休憩·給水	上野小学校	ゴール	クロス10	解団式
15:30	津南小学校	ゴール								
16:00				プール	田沢小学校	ゴール		プール		
16:30		プール								
17:00										
17:30					林屋旅館	風呂				
18:00		夕食		夕食		夕食		夕食		
18:30										
19:00	レクリエ	ーション	レクリエ	ー ーション	レクリエ・	ーション				
19:30	2772	7 17	レクリエーション		2772	レクリエーション		旅立ちの会		
20:00	健康チェック・ロ記		健康チェ、	ック・日記	健康チェッ	健康チェック・日記				
20:30	- 健康チェック・日記		健康チェック・日記		,	健康ナエック・日記		健康チェック・日記		
21:00	消灯·就寝		消灯•就寝		消灯•就寝		消灯∙就寝			
21:30										
22:00										
22:30	スタッフ	ミーティグ	スタッフ	ミーティグ	スタッフ	ミーティグ	スタッフ	ミーティグ		
23:00										
23:30										
0:00	スタッフ	フ就寝	スタッ	フ就寝	スタッフ	フ就寝	スタッフ	7就寝		

参加者名簿

1班			
氏名	学校名	学年	回数
小嶋大聖	下条小学校	6	3
津畑 祐太朗	下条小学校	6	1
阿部 京介	西小学校	5	2
堀 凌太朗	西小学校	5	1
小川滉太	東小学校	5	1
はグラ ケンシン 樋口 謙信	西小学校	4	1

2班			
氏名	学校名	学年	回数
福原悠以	中津小学校	6	1
阿部 彩乃	東小学校	5	2
村山 ゆい	東小学校	5	2
柳里佳	吉田小学校	5	1

学生スタッフ名簿

担 当		氏名	学校	学年
1班	リーダー	花岡和貴	上越教育大学	3年
1 1/1	サブリーダー	山田 昇	新潟産業大学	4年
2班	リーダー	後藤真実	上越教育大学	3年
	サブリーダー	高橋美春	上越看護大学	2年
セーフティ	筆頭	小高大樹	上越教育大学大学院	2年
		渡邊裕貴	上越看護大学	2年
広報記録		齋藤 亮	上越教育大学	4年
		只野さやか	新潟産業大学	4年

参加者 / 班 名前 小塢 大聖

■ 100km徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう!

今年1よ、3年目で、300km完歩できるよ
うにかいんしば、3うと思っていました。
スタートの直前しまくしま、本当しまける
のカン心配でした。たじけど学生スタフの人かでせてしてくれてなんだか歩
したならな気がしました。
日日日は、つかれたけどよいしいタ
食を食べたりしてこのままかんは、アシン
男、というまに最終日になってしまいま
した。友達や学生スタックの人とゴール
ていきてくてもうれしかたです。

参加者 1 班 名前 建火田子右大官日

■ 100km徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事山に書いてみよう!

(までくは、しまじめて実かした。最永かはちょっと
いしんかなかた。ではははしまた。
1日目キモーしから津、南小までだった
ての日はとてもあっかったでもじゅりちょう
についた。2日日の主おリメのにイテった。
としもされいだった。3月月5日間で1番
歩くきょりかをかっかた。まずいマンテンペ
- クをすらくのぼって行った。そに頂土
たついたとてもきれいだった。このおとくだ
11 2 Ct=0 30 C 2 1 5 SC 2 Ct=0 4 01 2010
は、のは、りはまかをけど1日月よりモ
初くなもたいたうたっきいる五月月され
こいの日だったのからなころれました。でも
ちゃんとコールをするコとかできました。
さいこうの百ちかのをひざしたの

参加者 | 班 名前 | 多可易 | 京、介

■ 100km徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう!

旧目かぞくからいおわかれ、ちょくさみしかった。 つな人、たついた時ラールだ、と思ってう れしかったけし一はスープになってた。 26月でまやり火田についたかしモンから、た からられしかったしうまかった。 ひまわりはすでくしっぱいさいていました。 かれてるのをさか"してみたら2~3個くらい ありました 3日目動からみんなけり人きかなかった。歩調コーノは ろいさか。た。てんぼう台からおりるとちゅうたかれて しまいました。4月月、ぼくはいなか、たけどつみな きかけんとなかよくやってたらしい。 5月目、くちゅうからだったけといみんなとご一儿 できてとてもうれしかった。 来年リインジにしくからま。ててね。日 100後歩サイコー(きがなっ

参加者 「班 名前是 压气的

■ 100km徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう!

ほくはいのはまじおもしろもう楽しるかという正生力で参加
しました。、楽けれたなからではないまでした。
多いているとちら近の次というたり遊れだりもじま
した。おうろにはだけもかさしかりのお
で試ちまかったです参いているときには次の物
けまずしじれくらいでうくかなれれ
してかくないてのくかけななどを考えていまし
た。5日目はあくもっちょくごゴーリば。だから全
力で声も出してかりまるさいろ気持ち
が多くなりを見る。まりまいらいをう
しわも強くなり、抜達もうみ楽しかったです。

参加者 1 班 名前 八 川 渥太

■ 100km徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう!

しまくがこの旅で感じたことは、映の生まの 大七刀ごと、時間の大ものこです。 いっもいせ20人加以上赤したので とてもつかれました。そんな時日かり生ま いっち気楽で楽しいことかかりました。 五日間、きっいとしたスケジュールで、休けい も、多くて30分くらいしかなくて、その中の いんびさらたのではむ時間が少なかったです。 えんな、母手に、毎日枝、ている時間によりかかる3 ことがどれだけ幸せなのかを知りまける この糸を腰をしりかして)免犯引金と休けいのメリハリ をつける ②物事をてきとうにかるのではなく最後ま しっかりとやる これらかことをがんはりたいです。

参加者 1班 名前村多通 丁言葉(言

■ 100km徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう!

ほどは最大力はとてもろ、あんでした。でもだ
たったるれてきてきれるかなけるととはいえなりかとなる
ました。ひもなきるないさかまいのひかりとな
ったけと"さいでまでリリロかあるけたので
よかったです。自分に自いからい
て玩気になってとてもよかったです。
またさんかして会計200ドmをかんは
たいづま

参加者 2 班 名前福原 悠以

■ 100km徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう!

ムは 100徒 歩には初めて出たの で「友達はできるかなろや「最 後まで歩るけるかなこはどの ノ心配もありました。むも本当 に出てみてちゃくとわかりま した。みんなとちゃんと仲良く はれる、友達になれるとわかり ました。100徒歩方踊していつ キ重で漏っていく猶は歩 みると与目間という時間か かかっていて、それでも歩るけ ればすごく気持ちかいいい ということをとても感じま した。次は学生スタックと して100徒歩に出たいです。

参加者 2 班 名前「可音」 彩少乃

■ 100km徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう!

私は今年で200km、歩キきりました 2年ともつらいコースでした。でも今年かり つらかったと思います。今年は全部で10 せのチ4人 男の子6人という少ない人数での旅で た。声も大きくはならなかったけど、一人一人かり 大きな声を出し、負けないぐらいがんばりました。 この声は一番きつい 3日目にも やくだちました 3月目はマウンテンパークへ行き、魚な坂を 体験(ました。最初は歩調コールやりたくな いな、いゃだなと思っていたところもありました。で も実際におてみるとやる気が出てきたり、あきり めにくくなるというよい所を見っけました。最終 日も全力でたち向かい、コールできました。コール

参加者 2 班 名前 村山 中上

■ 100km徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう!

私は100km 徒去の旅に出るのか2回目でした。
赤年よりも長くかんしほした。とてもつらかり、たところは
ひまわり畑までいく道とマウンテンリャークのが之りかい
きっかったです。そんな時に、みんなで声をかけなから
コールに分けました。それにリーターセサフッリーターかになる
うすこしたこと言、こくれて、かるきか、出ました。あるきなかい
ら友達とはなすのもとさもたのしかったです。100kmに出て
よか、た少思、たことは、友達かたくさんできたことで
す。私は、100kmにチャレンピレマみマよれたです。
511年もでて300トの完成したロブす。

参加者 2 班 名前 松月 里佳

■ 100km徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう!

せてできるできるかならずできのせい んなとてもがんはっていま と中で具あいが悪くなる人もいましたか 最後は、みんなでゴールできててても うれしかったです。 2日目、3日目は、山の(ま))でとてもきつ、 たけど歩調コールでみんなで、一歩一点 前に出て、最後まで登りました。とても みんながにはったと思りました。 歩調コールでは、みんなが本気になって かいんはったと思います。 本とうに凜しくて、とても成長できた 4はく5日でした。

保護者氏名 1)山島 奈苗

■ 100km徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか?

3年11、300kmを発歩するといり大きな目標があったので、
いっもの年より緊張していまった。
「より(こよって、今年(こ P良って、 くっ搾れするんじゃないから」
「もしかして熱中症です"ウンしたりして。」
「単血が止まらなくなった」リ・・・。」
など、いろんな事を考えまして。
V

■ 100km徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか?

きっといっも通り、学いく歩いているんできるかと思っていましたが、 あいた業書に、「ものすごく疲れました」と書いてあって、 ちょっとドキッとしました。 「トレーニングが足りなかったかな。」 「リュッケ擦れしたりして…。」 「新しいくつ下はダメたらたかも。」 など、またいろんないの事を考えていました。

■ 100km徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか?

3年をかけて、300トルを実歩けらんで、いり自信に満ち あかれているよう(こ思います。 OVの時间と OFFの時间をきわんと短い分けている ようにも感じます。 家にいる時は(まとんど OFF 1よので、 ツレほがゆく 感じますが、 がんばる時と 好む時、それ それ集中していていいののな。 あきらめない事、かんばる事、 一歩がり目標に何かえ は、必ず、それに 致達できる事を、身をもって感じることが できる 旅で、ってと思います。 もう次の月標を目指して 日々がんばっています。 もう次の月標を目指して 別くのなよんに支えられて実歩できなんだといかとを忘れず、 秋長にくましです。 ありがとうございました。

保護者氏名 澤 火田 報

■ 100km徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか?

正直学校力公回製紙を持ってきたてき、息子には 40) たろうと 思、ていました。 息子が参加(たいとき、ときたてまは、一時的な感情だと 見ていました。 本人は春を子を電路したことでは、好きな野杯でできないことで 体力が落ちたことをなたかけていました。 100Km なんて考いたこととないし、まったく知らない人たるとか日間過ごせるの こと思いましたが、急子のどる気を信じ参加させることにはしてい

■ 100km徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか?

動物の目は多少い配はありましたが、みまり人みしりでしない部分をあっている色子なら対応できると色っていました。
/のドかを持いてここのないを子が、足の痛み、くつかり為はないが言と思いはしていましたが、何もうツをを覚まが弱いことが無しなっていました。

ち日間を通じて、色子のいない対象には、ことが頼かで、いつがチレビの
チャンネルあらそいをしている 中学 生の扱きのかのがと 気がのおききな

■ 100 km徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか?

性にこが変ったといり実践はあいように思えます。
ただこの以前を対した重放配はあり、自分に自信があるかりに
ないたのではないかと思います。
一般を像、家の中でよくかけりコールをしている思子はつらめいた部分で 実しかで影的がなさなり、いい思い出ができたて思います。 一とはらの人はの中で、今回の体験をが、いい配がしになったと思います。 「のどの確当の放い場、細胞は私たる大人にもまえなことです。 子供に無けず、弱着をはわない親してありたと思っています。 一方回」のとか確立の放ては多くの方々に思すはお世話になりました。 「お人とかにいっから感動しています。 ありかとかこづいました。

保護者氏名 阿部 灰美

1	■ 100km徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか?
	今回は2回目の100徒歩(V)配はなく楽い頭張ってはい という気持ちでいっぱいでした。
	また新いた産が出来たらいいね たくさんの思い出も(下,てしましいと思っていました)
ı	■ 100km徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか?
	Tまが出発していったTまに暑くTまってしまってのかった 暑いのに強いを介でもさすがにい、い西にTまっていました。 それなく見 突然の電話、まさかの熱中症った 親子でたる来年ニテしまリバンジしょうと残く誓いましてこ。 でも皆様のおやけで最終日合流し
	すばらしい (中間 と ゴンル できて 本当に良かってこです。 100km徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか?
/	
/	京介でよりの発行を強く感じていると思います。 でも来年人の養欲はもっともっと残らてより。 オニーク大人にてよって未に思えます。
	少しわが生まもはまけっか。 自分で食べたお畑を洗い. お盆前の家を掃除したよりと進みで、いろんな事を してくれています。
	このままたれず続けていけてららく対っています.

保護者氏名 七品 中午

■ 100km徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか?

普与スポローツをしていますが、100kmという	
長い道のりを歩き切ることが出来るのか	
いたし / い 商己 で し / = 。	
人見知りをしてよい見るアよので、そのへんの	
/ご酉2(エ (アムィマ すみましタ=。	
, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	

■ 100km徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか?

■ 100km徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか?

自上、七基
家族や友達、様のTxと=3で100km歩いT=の10
頑張っていれる。と「こくさん(まめてもらいました。
自分に自信が、つきましてこと。
今の子ども連に足りないと言われている自己肯定の気持ち
がり、いと強手は、普段の生活をしているではけでは
傷られるそのではTanta~と際UましてEo
とても増しそうで、誇らしそうにしているるともの実顔を
見ると、本当に粉かりして良かってこと思いいまして
(局のてまて すぐに)「東年もリテくし」と言って、見、子。
つらくて 大変でよこともあって= けど、それを上回る
た実しT= 57=の(す 間違い Txし!
こニバスをやっているのですが、積極的なつしてでする様に
ナンリまして=… 100年歩交果??
関かって頂いますべての皆さんに感謝です。かりがとう

保護者氏名 ()(1) 月月美

■ 100km徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか?

最初に「おく、これに出たいしてけど。」と「OO後夢の申しうとみ用紙が至う度でれた時 [OOKmx)け長い新鮮を歩けるのか、子泊も影から離れて自分の身の周りのコとができるかか と、いろいて多い行うが頭をめぐりました。しかし、漫太が自分さきャレンプレアいと いう気持ちを大いにしてあげたいと思い、この旅に参加することを求めました。 完めできるのか、任意日本男くだったらなどというであるよりも 漫ながこの旅を通して 等ぶことが、大切と 果いました。

■ 100km徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか?

暑さに負けていないか、みんだにフいていけるかとは配し、浸水が大切な存在であると乗にしずて廃じました。元気に学校に行って帰ってきて、 されびみがり前の生活が幸せないだけみと素度に思いました。 だいて ゴールする時 浸水がどんだ顔でゴールするかが多えると楽しずで 月りは、フンを歩いているわと客族で毎日話していました。

■ 100km徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか?

メ油ヶ日東の周りのことを自分えずることがされ、100ドル歩きみいでということで、自信に繋がったと思います。
家族に100便歩のことを関われ、強す港人はよるもうれしてウェ
生き生きとした練をしていまいた。
東年もイャレングのるで、と言言し、家族を抽生をいりが不をしていまったくましくでったとうれしく際じました。
自治がチャレングしていと中レシンしで100便歩はチャレングのることの連成際をタネわるでことが「番の収穫だと思います。
すっかりもとの生活に戻っていまのが、月後何かドチャレングの3とさ
作中をチャレてくれる「つの発動をにてよってことをいます。

保護者氏名 根日息美子

١	■ 100km徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか?
	特かける事かきかけは「な遠が一調に行くからしいう 事でした。しかした遠が一調に行く事が生まるくなり、 本人も述っているで、そででが行くまう総得し、 行く事になっているでしてもい。即でした。
	■ 100km徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか?
	日祥表を見て分らの地策を告いているのかで、 塩中で、いががれていてかいかできれる (大婦で、話をしていました。) といがくい頭でで、い配で、しかないかったです。
•	■ 100 k m徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか?
	日内の事はすべて目的で、行う習り質がフラチした。 日海を経かかいては、朝、早く記さ、方の、早く腹る、 日内のだえをしっか、り言かる。 一国リオテくてかりが、長、レイラル気がしました。スタッフのみなせん 「アルセクル・ガリがとウンゴエハ・チした。

保護者氏名 為 魚 美 心

	■ 100km徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか?
	体力が無くて 学成の行事をども 虚中で 神みてしてう事が あったので 自力エラ 秘教 るな るいい 最後まで 頑 根 いろ が 心肌 でした。 私も若、煩、100km 歩、た 都駅がかり 日光労した時の連成為 を知って いるので、その代で なりなり またいとこう 気持ちで が張していました。
	■ 100km徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか?
2.	連目着、日が続いていたので、併力の消耗が気がよりでした。 日経表を持る考え、気でくと「月、何をしているがで」からフレス いました。 食事も機めているが、別でしたが、学にパッサでントルを送って いました
	■ 100 km徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか?
	タチで、ルンガラだかいて、た サス・キャンプンド 選べ 自力でき 連成感を感いて、ラチラごう、 京歩 出来 をカット 横しエラ タの 良・超駅になったおうです 日に見えて 裏かった事日、期 リッガリ自力で起て、タチで以上に 自力の車は自分でするようになりました この見の程駅 が、これがらの 第22 で ダガエルろ車を願ってい ます

保護者氏名 阿舒 轮子 〔彩乃〕

	100km徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか?
	昨年に焼き2回目の局的なので、気持ち的には少く系統がありましたの 期細の準備はほぼしかしてとい、私と再確認しなから 昨年の見い故 記をしたりに、楽いい時間が、あごせをいたの なび出来ない、なずとについ、子供の響いればしばないなかかりなしたが、
	知のちゃち日間も難いる寂しとと無事に事ってみるからられ、心動なり
	100km徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか?
	正直、17配で17配でしれてかありませいかした。 日程表も手難のませいでした。 そいは、昨年に比べ ちょ練習が あまり かまたかにことに加え コースが京りようにもかくなったことです。
	これ、牧慢強く、弱者をよかわいるかのが、それが生にいいいした。
•	100km徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか? 5日間 鶏はいいたのは やみり 寂しらった チウで、 甘むいばに 行りました。
•	100km徒歩の除から帰宅後は何か変わりましたか? 5日間 蘇ルン・トのご やゅり 寂しら ホチラン・ せんいちゃ ちりました。
•	100km徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか? 5日間 離れないたのだ。やゆり 窮しらったようで、 すんいなっと 何りました。 しゅんでら、いつも 魚りに なりまないでって で 大勢だった。つらもった 思いままりも、 紫い、思い出も 淡山 銘いてんかそでっ スタッフェの レフリエーションが 楽しかできた。 かちきょっ かまない モ とにかく
-	100km徒歩の除から帰宅後は何か変わりましたか? 5日間 蘇ルマットのでやゆり 寂しら、たようで、せんいちに なりました。 (a気いたら、いつも、恵りになりましたが、 ♡ 大変だった、つらおった、思いぬまりも、 楽い、思い出た 沃山 銘にてくやそで。

保護者氏名 村 山 明 行

■ 100km徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか?

_	
	1日暑い日が続いていて、その中での100km はかなり大変だ3分と見っていました。熱中症にならないかといかして歌していました。 着てさえ乗り切り中100km 京歩はてきるのかなとは思っていました。
	100km徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか?
	暑い中参りている中で、かんけって歩けているか、熱中症には からないかと思っていました。
	100km徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか?
	変かったとこうは今のところ見り当たりませんが、これから 何が変わっていくのかなと期待しています。

保護者氏名 大り 麻美

■ 100km徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか?

まったく矢口っている子もいない中、1人でも参加する 友達をたくさん1年りたいからと本人は前向きでしたし、 1年か的にも 学校では 他校から1本育学校と言いれる 1立運動も常にしていたので10酉ともしませんでした。

■ 100km徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか?

今頃何をしているかは?どこら込を歩いているかは? とスケジュールを見ながら思っていました。 楽しんでいるんだろうなあといい面ではしませんでした。 ただ、暑い日が緑いたので、大変だろうなあとは 思っていました。

■ 100km徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか?

久し振りに見た顔は 実顔で"また"また"余裕をうで"に下る つらくはなからたそうで"す。 さすがで"す。 帰宅後 2、3日は言葉が 男前になっていて… らかとひ"っくり しました。 変わったところと言めれると… 特にない 様はなか"しますか" さらに たくましく、自信をもった 本業な気か"します。 別長をはびめ 実行委員会の 智様 糸塚人ボランティア 学生ボランティアの 旨本策 本当に ありがとう ございました。

学校名:上越教育大学(3年) 学生スタッフ氏名:花岡 和貴(か~くん)

この 5 日間のことは絶対に忘れません。子どもたちが「一歩」ずつ前に進んでいく、小さな「一歩」ではあるけれど大人になっていくように感じました。私自身もそんな子どもたちに支えられながら「一歩」ずつ歩みを進め、ゴールに到達することができました。ゴールに着いたときは大きな感動がありました。「ありがとう」の気持ち、「終わったー」という気持ち、何だか寂しい気持ち、嬉しい気持ち、色々な気持ちが込み上げてきました。それはこの 100km 徒歩の旅に関わったみんなのおかげです。この感動に達するまでを振り返ってみようと思います。

私が 100km 徒歩の旅の学生スタッフをやろうと思ったきっかけは単純です。ただ興味があった、それだけです。しかし毎週の研修を受けていく中で、自分はいったい子どもたちにどうなってほしいのか、自分はどうなりたいのか、自分は子どもたちに何をしてあげられるのかを考えるようになりました。100km を歩き切るという大きな達成感を味あわせたい、今までよりもちょっぴり成長させたい、仲間がいるから自分も頑張れるということを知ってもらいたい、そして私も今できることを一生懸命やりたいという気持ちがだんだんと強くなっていきました。また、私たちが5日間預かる子どもたちの命は何にも変えられない尊いものだということも実感しました。

私は班のリーダーとして**5**日間子どもたちと過ごしました。楽しく話しながら歩いたこと、大きな声で歩調コールをしながら歩いたこと、子どもの背中をそっと押して歩いたこと、「もっと、もっと、まだ頑張れる」と言って歩いたこと、全てがいい思い出です。つらい坂道も子どもたちは必死になって歩いていました。私や他の学生スタッフの追い込みにも負けずに「一歩」ずつ進んでいました。しかし、もう少し子どもたちを本気にさせられたかもしれないという後悔もあります。本気で何かに立ち向かうこと、本気で壁を乗り越えていくこと、つらくても仲間がいるから頑張れるということなど色々なことを伝えたかった。今となっては多少の後悔は残りますが、みんなで歩いたこの**100km**のことは忘れません。子どもたちが「**100km**楽しいね」、「絶対に忘れない」と言ってくれて私は非常に嬉しいです。この**5**日間たくさんの笑顔に出逢い、たくさんの子どもの良いところに出逢いました。研修から本番を終えるまでに色々な出逢いがあり、色々な人に支えられていることを実感しました。一人ではできないことも仲間がいるからできるということも実感しました。

私はこれからも出逢いを大切にし、仲間を大切にして「できる、できる、必ずできる」の精神で「一歩」ずつ前に進んでいき、今できることを一生懸命やっていこうと思います。そしてもっと自分を成長させていこうと思います。

学校名 新潟産業大学(4年) 学生スタッフ氏名 山田 昇(山ちゃん)

_今年の夏も、越後つまり **100km** 徒歩の旅に参加し、学生スタッフとして歩けたこ とは大変嬉しく思っています。特に今年は、参加4年目という、100km 徒歩の旅に 学生スタッフとして最後の年になることもあって4年間で最も緊張した 100km 徒歩 の旅でした。

_今年はサブリーダーとして子供<u>たちの先頭に立ち導く役割を任せられました。今年</u> の参加者は少なめだったこともあり、子供たちひとりあたりに接する時間が多く、子 供たちが思っていること、興味、100km 徒歩の旅中に考えたことなど、よく聞けた ことは私が歩行中の楽しみでした。一方で、サブリーダーを実際やってみて気が付い た点が2つありました。

1つ目は、歩行中、振り返れば子供たちの顔色や様子が一目でわかることに気付け ました。1年目はリーダーとして班の後ろから、2年目は団長補佐として道を挟んで 反対側から、3年目はセーフティとして子供たちを横から見てきましたが、サブリー ダーが一番子供たちの顔色が見やすかったと思います。私は、サブリーダーをやる前 は、セーフティの人が前後自由に動けるし、子供ひとりひとりを相手できそうだから、 子供たちの変化に気が付きやすいだろうと思っていましたが、セーフティは隊列から 離れることが多く、ひとりひとりの様子を常に見ていることができていなかったと気 が付きました。4年目にしてではありますが、隊列の管理面はやっぱりリーダー、サ ブリーダーがやらないといけない、リーダー、サブリーダーって大切な役割だと改め て思いました。

2つ目は水分補給が一番困難な役割だと思いました。当たり前かのように見えます が、本番を通して実際サブリーダーをやるまであまり気にしていませんでした。旗を 持ちながらなおかつ歩幅を落とさずに給水することは難しく、自然と水分補給の頻度 が減り1回の給水量が増える傾向にありました。自分自身の注意が足りないと思いま した。次回サブリーダーをする方の参考になればと思います。

この 100km 徒歩の旅に参加して自分の中で、決断する勇気がわずかながら成長し ました。本番が始まれば状況が待ったなしに変化してき、熱中症になってしまう子供 が出たり、ハプニングがあったりと、その都度判断を迫られます。以前の私なら、ど うすればいいか難しく考えすぎて、結局自信の持てない判断になっていました。しか し、この 100 km 徒歩の旅を通じて難しく考えないようになりました。これも 100 k m徒歩の旅にかかわったおかげだと感謝しています。

最後に今回参加した学生のみなさん、出会えたことに感謝します。

学校名 上越教育大学(3年) 学生スタッフ氏名 後藤真実(ごまみ)

<u>私はこの越後つまり 100km</u> 徒歩の旅に参加させていただいて、2 つのことを学ぶことができました。

1 つ目は、自分の限界を決めないということです。普段からほとんど運動をしない 私は、100km を歩くことに対して自信もなかったし、不安ばかり感じていました。 事前研修の試歩の際にも、1日分にも満たない距離を歩いて疲れを感じていて、周囲 の方に本当に歩くことができるのかと心配をされていました。私自身も、本番は子ど もたちがいて、子どもたちの安全や健康を考えて歩かなければならないのに、余裕の ない自分に焦りを感じていました。しかし、5日間歩き続け、完歩することができた 自分を振り返ってみると、自分にはこんな力があったのだと気づくことができ、私自 身にとって大きな自信になりました。また、子どもたちも1日目、2日目、3日目と 日を重ねるにつれて歩調コールの声が大きくなっていったり、自分だけでなく仲間を 思いやるような「頑張れ!」「大丈夫?」という温かい言葉を掛け合ったりと、確実 に疲れは溜まっているはずなのに、一日一日を一生懸命に歩き続ける子どもたちの姿 はとてもたくましかったです。子どもたちに本気でぶつかっていけば、本気で返して くれて、その姿は周りの子どもたちにも影響を与え、周りを動かすきっかけになるの だと身をもって体験することができました。また、自分よりもずっと小さな体で一歩 一歩進んでいく子どもたちには、私の想像以上の力があって、限界は決められるもの ではないと感じました。

2 つ目は多くの方に支えられているということです。この事業の存在を教えてくださった大学の先輩たち、事前研修でアドバイスをくださった先輩方、忙しい中サポートしてくださる社会人スタッフの方々、大切なお子さんを私たちに預けてくださった保護者の方々、本気で頑張ってくれた子どもたち、最後まで一緒に悩んだり、笑ったり、泣いたりたくさん2班のことを考えてくれたハル、第5回を一緒に作った仲間、毎週毎週研修をして5日間の素晴らしい体験をさせてくださった団長、みんなに感謝の気持ちでいっぱいです。私一人だったら絶対に完歩することはできませんでした。支えてくれた人たちがいたからこそ、私は最後まで歩き切ることができたのだと思います。一人ではできなこともみんなでやればできるのだと学ぶことができました。

この**5**日間本当にかけがえのない経験ができました。将来、教員を目指す私にとって素晴らしい時間を過ごすことができたと強く思います。今回の経験だけに満足せず、強く優しい人間になるために、また立派な教員になるために、もっともっと経験を積んでいきたいと思います。ありがとうございました。

学校名 新潟県立看護大学(2年) 学生スタッフ氏名 高橋 美春(ハル)

今回初めて「越後つまり100km徒歩の旅」に参加して一番の率直な感想は、「参 加してよかった。」です。私は印象的で、熱く、そして成長できた大学生の夏休み5 日間を過ごせました。子ども達と歩き、声をだし、三食を共にし、寝て、遊びとても 楽しかったです。大学で子どもと触れ合う機会は少ないため、この5日間は新鮮であ り、子どもって面白いと感じました。また、2班としてみんなで5日間を歩き切りど のように成長していくか考え、リーダーのごまみとたくさん話し合いました。4日目 までは、歩くことで精一杯で子ども達を成長させることまで深く考えられず、4日目 の夜のミーティングでやっと深く考え始めました。この時点では遅く、子どもが成長 するチャンスを奪ってしまっていたことが反省です。4日目の夜に子ども達一人ひと りについて考え話し合い最終日の方針、計画を決めました。2班のみんなは、ごまみ と私で立てた計画についてきてくれて時間管理、整理整頓などが子ども達だけででき るようになっていました。ただ歩くだけ、楽しいだけなら簡単ですが、しっかり子ど もに向き合い、成長させるには楽しさだけでなく時に厳しい熊度、真剣な熊度も必要 だと分かりました。楽しさと厳しさのバランスが大切でそして難しいと感じました。 5 日間子ども達と 100 km歩く中で、子ども達のたくさんの変化に気づきました。初 日では小さかった声がどんどん大きくなりました。最後には声が枯れている子もいま したが、それでもがんばる姿に感動しました。また、初日では子ども達はまだ学生ス タッフとも子ども達同士ともまだ慣れずにぎこちない雰囲気でしたが、一緒に過ご し、夜のレクリエーション、プールなどを通して最後にはみんなが名前を覚えて仲良 くなることができました。私自身も子ども達全員の性格、良い所、まだまだ成長でき る所などが見えてきて面白いと感じました。子どもたちが自分の良い所、直すべき所 について気づけるような声掛けも所々でしました。

学生スタッフは本番まで団長と社会人スタッフの方々と研修会を重ねてきました。 また、5日間の中で何度も学生同士でミーティングや意見交換を重ねました。初めて 参加して初対面の人たちばかりで最初は戸惑いましたが、一緒に第五回の100徒歩を 作り上げていく中で関わり、たくさん助けてもらいながら親しくなることができまし た。みなさん気さくで、優しく、面白く、子ども達のために一生懸命になれる方たち で素敵でした。学生スタッフのみなさんと出会いたくさんの刺激を受けました。

最後に、学生スタッフとして貴重な体験をさせて頂けたのは、忙しい合間を縫って 計画、調整、サポートしてくださった団長、社会人スタッフの方々のおかげです。 ありがとうございました。

学校名 上越教育大学大学院(2年) 学生スタッフ氏名 小高 大樹 (いっきぃ☆)

私にとって2回目の参加となる100km徒歩の旅。今回は筆頭セーフティーとして、 子どもたちのサポート及び子どもや学生スタッフの実質的なトップとなる立場で参 加させていただきました。5日間、特定の班につかずにさまざまな子と接することで、 多くの子どもたちの頑張りや成長、可能性に気づくことができたほか、全体を統括す るという立場から、子どもたちに自分の思いを直接伝えたり、子どもたちの全力を受 け取ったりする場面もありました。とても貴重な経験をさせていただけたことを、団 長や学生スタッフ、参加してくれた子どもたちと保護者の皆様に感謝いたします。 子どもたちの姿には目を見張るものがありました。声が枯れるまでいつも全力で歩 調コールをしてくれる子が何人もいました。ですが私はそんな子に対しても心を鬼に し、「まだまだ足りない」「もっと本気になれる」と叫びました。自分ひとりのためで はなく、仲間のために本気になることが、結果的に自身の限界への挑戦になると考え、 みんなを応援するつもりで一人ひとりが必死になれと子どもたちに言いました。かな り厳しい言い方をした場面もありましたが、子どもたちの意識は歩いてきた距離と共 に少しずつ高まっているように感じられました。仲間を励まし応援すること、仲間の ために全力で頑張ることの大切さを、子どもたちが気づいてくれたなら、とても嬉し いことです。

一方で、隊列から遅れてしまった子どもへのサポートには非常に悩みました。特に 今年は猛暑が続いたこともあり、体調を崩してしまう子が何人も出てしまいました。 そんな子に対しては精一杯励ましの言葉をかけたり、一緒に歩いたりしながらも、心 中では子どものため、チーム全体のために自分の立場から何をすべきか、常に試行錯 誤の状態でした。セーフティーとして子どものため、チームのためにできることを真 剣に考え、行動したこと、そしてそこから感じ取った多くの学びが、今回の旅で私が 得た、最も大きな経験だと考えています。

余談になりますが、100 徒歩を終えた数日後、とある山に登りました。山頂から下山を始めると、前から登ってきた子どもが「こんにちは!」と驚くほど元気に挨拶をしてくれました。たったそれだけの出来事なのですが、挨拶ひとつとっても、人のためにいつも全力を出せる人はやはり凄いと感じます。今年の100 徒歩を終えて、私は自分自身の全力と、それを人のためにぶつけることの素晴らしさを学ぶことができました。私の次の課題は、今回の100 徒歩をスタートラインとして、これから先、人のために常に全力であり続けることです。そしてこの旅を通して得た多くの仲間、数々の気付き、数えきれないほどの経験や感動など、有形無形すべてのものに感謝いたします。本当にありがとうございました。

学校名 新潟県立看護大学(2年) 学生スタッフ氏名 渡邊裕貴(なべ)

今年で2度目の100徒歩だった。去年はリーダーとして班を引っ張ったが、今年は セーフティとして主に遅れた子を班に戻したり、歩調コールを盛り上げたり、子ども たちの安全を考えて行動していた。去年の天気は曇りがちで涼しく、歩きやすい日が 続いたが、今年は猛暑日が続いた。そのためか、3日目には京介が軽い熱中症になっ てリタイアしてしまい、他にも熱中症の症状を訴えた子がいた。今年の反省として、 3 日目の展望台で休憩の時に、日向で休んでいた京介をなぜ日陰へ誘導しなかったの か。日陰で休憩していたら体力が回復して、熱中症にならずに済んだのではないか。 去年同じ班で歩いた仲間ということもあり、熱中症になってしまったことに対して強 く悔しさを感じたと同時に、セーフティとしての自分に不甲斐なさを感じた。反省と は別に考えさせられたことは、盛り上げること(子どもたちにもっと声を出させるこ と) に関してである。5 日目の朝にも伝えたように、私の中では 100km 完歩するこ とが限界に挑戦することではなく5日間最後まで全力で声を出し続けることが限界に 挑戦することだと思っている。何故なら、体力的に 100 k m歩くだけなら決して難し いことではないからだ。だから、学生スタッフを中心に初日から「声を出せ」とか「も っと出せるぞ」と声を掛けて追い込ませてきた。初日から日が経つごとに声量が大き くなっていったが、5日目あたりからはなかなか今まで以上の声が出てこない。「まだ まだ声を出せるぞ」とか「本気を出せよ」と強く最後まで言い続ける方法もあった。 けれど、私には出来なかった。熱中症になるかもしれないからという理由も少しはあ っただろうが、もし私が全力で声を出しているのに、もっと出せと言われても気分が 沈むだけだからだ。学生スタッフとしては甘い考えかもしれない。全力で声を出して いるかどうか、見極めるのは難しいが、子どもたちを信頼することも大切だと思うし、 声ではなく自分が全力で声を出すという行動によって伝えていきたいと思っていた。 正直、今年の100徒歩は班付きではなくセーフティで子どもたちとの深い関わりが 少なかったため、感動はあまりしないだろうなと感じていた。けれど、全員でゴール した後の解団式には涙を流している自分がいた。このメンバーで5日間共に過ごした ことは最初で最後であり、本当に偶然であった。声を枯らしながらも出し続ける姿、 体調を崩しても諦めようとはせずに最後まで歩き続ける姿、無邪気な笑顔、、、決して 忘れない。感動を与えてくれてありがとう!そして子どもたちへ。100徒歩は完歩す ることが狙いではない。自分で考えて行動すること、他人を思いやること、全力で取 り組むこと、他にも100徒歩で学んだことはたくさんあるはずだ。これからの生活に 生かして逞しい人間に成長していってください。期待してます。

学校名:上越教育大学(4年) 学生スタッフ氏名:齋藤 亮(りょうちゃん)

私は、越後つまり 100km 徒歩の旅 3 回目の参加であり、今回は初めて「記録・広報係」として子どもたちの旅に同行した。

過去 2 回の参加の時に、班をまとめる「リーダー」、子どもたちの安全を守るために尽力する「セーフティ」をやらせていただいた。記録・広報係という子どもたちの活動を一歩下がったところから記録することの楽しさ、難しさを実感した。子どもたちの一瞬一瞬のよさ、笑顔、苦しみながらも完歩を目指している様子をカメラを通して視ることで、リーダーやセーフティの立場では決して視ることができなかった子どもたちの姿が視れた。しかし、私は撮影に関しては素人である。過去の活動記録から撮影ポイントや構図を学ぶことはできたが、やはり撮影技術が足りず難しさを感じることが多かった。

今回の 100km 徒歩の旅を通して、反省点がある。それは、記録・広報係としての目的を係員でちゃんと共有できていなかった、ということである。それぞれ役割ごとに目的がある。リーダー・サブリーダーは子どもたちが完歩できるように徒歩、生活面でサポートし、子ども全員を完歩させること、が目的である。セーフティは、子どもたちを守るために尽力する、また、学生スタッフや社会人スタッフの健康管理をすること、が目的になる。それでは、記録・広報係の目的は何か。記録・広報係の目的は、子どもたちの活動の様子を保護者の方々、地域の方々、100km 徒歩の旅に興味のある方々に伝えるために撮影すること、である。誰に伝えるのか、ということをしっかりと係員で共有するべきであった。子どもたちのために、という大前提の考えを持って行動はできていたが、記録・広報係としての目的をもっと共有するべきであった。

私は今年で大学を卒業し、社会人として働く。学生スタッフとして 100km 徒歩の旅に参加するのは今年で最後である。100km 徒歩の旅では、大学の講義では決して学べないたくさんのことを学ぶことができた。子どものいのちを守るということ、地域教育や体験活動のよさ、スッタフが協力することの大切さ、何事も全力で取り組むということ、などここに全て書く事はできない。子どもたち、保護者の方々、地域の方々、学生スタッフ、澤野団長をはじめとする社会人スタッフの方々、100km 徒歩の旅に参加する全ての方々にお礼を申し上げたい。本当にありがとうございました。100km 徒歩の旅で学んだことを生かして社会人として何事にも全力で向かっていく。また、今後も100km 徒歩の旅に携わることができるのであれば、100km を歩く子どもたちのために尽力する。

学校名 新潟産業大学(4年)

学生スタッフ氏名 只野 さやか(たま)

「私には素晴らしい力があります。」今年の子どもたちはどんな力を内に秘めているのだろう、と始まる前から本番を楽しみにしていました。今年は今まで関わってきたなかで小学生の人数が最も少ないと聞き、少し寂しい気持ちもありましたが、「少数精鋭」となった今回は、子どもたちの力がより引き出されてくるのではないかと感じていました。そして、広報記録の担当として、子どもたち1人1人のより多くの様子を記録に収めていきたいとも考えました。

5日間を通して、たくさんの表情を見ることができました。今日も1日頑張ろうと やる気が溢れているときの顔、班のみんなと一緒に協力して歩いているときの顔、リ ーダー・サブリーダーをはじめとするスタッフの話を真剣に聞く顔、歩き終わった後 のプールではしゃいでいる顔、ごはんを食べているときの嬉しそうな顔・・・ここに は書ききれないたくさんの表情が、そこにはありました。日が経つにつれて、カメラ 越しに見る子どもたちは少しずつたくましくなっていて、心も広くなったのではない か、と感じたことを今でも覚えています。普段笑顔が絶えない子が真剣な表情を見せ たり、歩調コールの声があまり大きくなかった子が、それまで以上に大きな声を出そ うと行動に出してみたり。そうした子どもたちの変化に、5日間という短い期間では ありますが、立ち会えたことを誇りに思っています。

この100km徒歩の旅を通して、私はたくさんの人と出会うことができました。 1年しか関われなかった人、数年間関わってきた人。一緒に過ごした時間は相手によって違いますが、みんなとの出会いがあってこそ今の私がいるのだと感じています。 この事業に出会っていなければ、自分の長所・短所について真剣に考える機会もあまり無かったのではないかと思います。来年からは社会人となりますが、ここで学んだことを活かして、自分の目標に向かって頑張っていきたいと思います。

一緒に5日間過ごしてきた小学生のみんな、たくさん話し合って濃い時間を過ごしてきた学生スタッフのみんな、温かく迎え入れてくれた社会人スタッフの皆様、なによりこの事業に出会わせてくれた団長。みんなと過ごした時間は私にとって宝物です。今年も素敵な出会いをありがとうございました。

4年間続けてよかった!みんなとの出会いに感謝!!	

(順不同・敬称略)

■協力■

社団法人 十日町青年会議所

■後援■

十日町市 津南町 十日町市教育委員会 津南町教育委員会 越後妻有交流館キナーレ エフエムとおかまち 全国100km徒歩の旅 十日町新聞社 週報とおかまち社 十日町タイムス社 津南新聞社

■賛助頂いた皆様■

こじま寿司 スリーエスシステム 有限会社ミヤコウドリーム 株式会社クリエートきもの絹都 株式会社加久田工業 株式会社吉楽土建 株式会社吉田商会 株式会社恒樹園新潟 株式会社十日町生コン 株式会社小泉工業 株式会社村熊商店 株式会社中山建工 株式会社朝日堂 株式会社富剛建設 株式会社松乃井酒造場 大村建設株式会社 株式会社三高土木 株式会社共立舗装 株式会社福島建設 株式会社福島砂利丸福生コン 丸松工具株式会社 佐野写真館 小川自動車株式会社 有限会社服部総業 焼肉ひゃら 千原株式会社 庭又板金店 有限会社エーデルワイス工芸社 有限会社きさらぎ 有限会社マルミ電化サービス 有限会社ヤナギ商会 有限会社花せん 有限会社マルミ電化サービス 有限会社ヤナギ商会 有限会社花せん 有限会社大米銘木店 有限会社涌井工業 株式会社中央印刷 株式会社魚沼 養老の瀧 林屋旅館

阿部 晃 市川直子 松田和彦 長谷川吉徳 田村祐昌 田村和広 藤ノ木和人 俵山修司 俵山忠之 柳 典孝 葉葺利男 吉澤政敏

■お世話になった学校・施設・会社・団体■ 津南小学校 中津小学校 芦ケ崎小学校 田沢小学校 上野小学校 吉田小学校

新潟県厚生農業協同組合連合会中条病院 十日町情報館 視聴覚ライブラリー 諏訪神社 十日町地域消防本部 財団法人十日町地域地場産業振興センター 越後妻有交流館キナーレ ナカゴグリーンパーク 龍ケ窪 神宮寺 マウンテンパーク津南 株式会社上島 株式会社新潟ソフトストラクチャ 株式会社富剛建設 津南町観光協会 林屋旅館 株式会社ムラオ 株式会社村山興業 雪国 ミオン中里 有限会社大地 タナカクマキチ フレッシュランチ・ハーベスト セブンイレブン福田屋 セブンイレブン十日町西店 NPO法人ネージュスポーツクラブ

■助成■

子どもゆめ基金 (独立行政法人国立青少年教育振興機構)



越後つまり100km徒歩の旅実行委員会

〒949-8524 新潟県十日町市馬場丙1505 (株)上島内

TEL:025-758-2033 FAX:025-758-2505

URL: http://echi100km.main.jp/
E-mail: info@echi100km.main.jp

